

プラチナ未来人財育成塾

未来のリーダーを育成することを目的として開催されている「プラチナ未来人財育成塾」。毎年各中学校の代表生徒を派遣しています。広報きくち11月～3月号で、参加した生徒の報告書を紹介します。

参加報告

プラチナ未来人財育成塾で学んだこと

菊池北中学校3年 元村結愛さん



私は、今回東京でプラチナ未来人財育成塾に4日間参加しました。全国から40名ほどの中学生が参加していて、地球が持続し、豊かで全ての人の自己実現を可能とする社会「プラチナ社会」について、著名な先生方の講義を聴いたり、グループワークを行ったりしました。

グループワークでは、感じたことをメンバーや大学生、シニアチューターの人たちと共有し合い、考えを深めていきました。この中で私たちは2050年の社会がどのようなようになってほしいのか自分なりにテーマを決めました。私は「誰もが住みやすく、住み続けられる地球」というテーマを設定しました。このような地球にするためにはどのようなことをしていかなければならないのか考えました。

私が必要だと思うことは、今ある社会に興味を抱き、課題を見つけ、その課題をさまざまな視点から考え、たくさんの方の解決策を見出していくことです。その理由は、今回のプラチナで聴いた、東京大学未来ビジョン研究センター教授の菊池康紀先生のお話が印象に残ったからです。

私は、今回東京でプラチナ未来人財育成塾に4日間参加しました。全国から40名ほどの中学生が参加していて、地球が持続し、豊かで全ての人の自己実現を可能とする社会「プラチナ社会」について、著名な先生方の講義を聴いたり、グループワークを行ったりしました。

グループワークでは、感じたことをメンバーや大学生、シニアチューターの人たちと共有し合い、考えを深めていきました。この中で私たちは2050年の社会がどのようなようになってほしいのか自分なりにテーマを決めました。私は「誰もが住みやすく、住み続けられる地球」というテーマを設定しました。このような地球にするためにはどのようなことをしていかなければならないのか考えました。

私が必要だと思うことは、今ある社会に興味を抱き、課題を見つけ、その課題をさまざまな視点から考え、たくさんの方の解決策を見出していくことです。その理由は、今回のプラチナで聴いた、東京大学未来ビジョン研究センター教授の菊池康紀先生のお話が印象に残ったからです。

菊池先生は、今やるべきことや、できること、したいことは何なのかなど、これからのビジョンについてたくさんの方の話を教示してくださいました。その中でも、「マイ箸と割り箸」の話がとても印象に残っています。

この話はどちらの方が環境問題に影響を与えているのかという話でした。私は絶対に割り箸だと思いました。マイ箸は洗って何度も繰り返し使用することができ、割り箸は使用した場ですぐ捨てるものが多いと思うからです。でも菊池先生の見解は違っていました。菊池先生はこのことについて、「専門的に見ても分からない」とおっしゃっていました。

なぜならば、「マイ箸は使い終わりの洗浄の時に使用するお湯や洗剤の使用量が大きく、環境に影響を与えている一方で、割り箸もまた、使い終わって捨てて燃やす時に二酸化炭素を排出してしまう。だから、どちらが環境問題に影響が出て、どちらを使った方が良いのかは分からない」と話されました。

このように一つの課題に対してはい終わりだけを考えるのではなく、リ

プラチナ未来人財育成塾

未来のリーダーを育成することを目的として開催されている「プラチナ未来人財育成塾」。毎年各中学校の代表生徒を派遣しています。広報きくち11月～3月号で、参加した生徒の報告書を紹介します。

参加報告

地域の未来を担うために

旭志中学校2年 大塚理央さん



私は今回のプラチナ未来人財育成塾に参加し、そこでプラチナ社会の実現を目指すため、2050年どんな社会になってほしいのかを7人の講師の方の講義を聴き、考えました。

その中で一番心に残っているのは、蓑田秀策さんの「人と人がつながることの大切さ」の講義です。この講義で蓑田さんは「社会は人が支えあっている状態で、これをきちんとつづけていくことが大事」「多様な価値観を認め合うことで社会とつながっていく」とおっしゃっていました。

また、主催されている百万人のクラシックライブというピアノとヴァイオリンの生演奏を聴きました。百万人のクラシックライブとは日常に音楽があふれる街を目指して、あらゆる場所に音楽を届ける活動です。

この百万人のクラシックライブを通して、音楽はとても長い間残されて、人から人へと受け継がれている人々の想いを音符で表現したものなのではないかと思いました。言葉が通じなくても音楽は互いに通じ合うことができるからこそ、たくさんの人々に親しまれ、受け継がれてきたと考えました。

私は蓑田さんの講義を聴き、改めて人とつながる大切さを実感しました。蓑田さんの講義の中で最も心に残っている言葉は「0と1の間を認め合うことが多様性」というものです。「ある」「ない」などの二極でなく、その間を大切にすることで多様性が生まれるということだと感じました。

最近によく「多様性」という言葉を耳にします。その多様性が生まれるために私が必要だと考えることは、たくさんの人とのふれあいです。私は人と人が互いに認め合うためには、まず相手のことを丁寧に知ることが大事だと思います。

互いに認めるといっても何も知らない相手では、どうやって認めると良いか分からないからです。だから私は人と人がふれあうことが必要だと考えます。そのためにはたくさんの方が集まり、交流できる機会があるといいと思います。

地域の小さな子どもから高齢者まで、幅広い年代の方など、さまざまな人たちが集まればいろいろな交流ができ、互いに認め合うことの大切さを学ぶこともできるはずです。だから、そう

したふれあいの場が近い将来できるいいなと思いました。

私はまず、すぐにできる交流から始めていこうと思います。それは「あいさつ」です。あいさつは皆が簡単にすることができ、たくさんの人に通じる交流です。ただあいさつするだけでなく、とびつきの笑顔で明るいあいさつをすれば、自分も相手も笑顔になれるし、気持ちも良くなります。

私はこれからちょっとした行動にも一つ一つ気を付けていき、たくさんの人と交流し、相手のことを知り、認め合っていけるようになりたいです。自分がまず率先して行動に移し、身近なコミュニケーションを明るく活発なものにすることで、これからの社会がよい良いものへと変わっていくように、自分にできることから実践していきます。

自ら動く視野も広がり、プラチナ未来人財育成塾で学んだ「0と1の間を認める」ことができる人になり、身近な友達や家族と共に多様性について考え、これからの地域の未来を担う一人になりたいです。